学校番号	４０７

平成３１年度　理科

教科	理科	科目	地学基礎	単位数	２単位	年次	３年次
使用教科書	改訂 地学基礎　（第一学習社）						
副教材等	なし						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

宇宙はどのように誕生したのか、私たちの住む地球は宇宙のどこにあるのか、地球の内部はどのようになっているのか、このような疑問に向き合ってきた学問が地学です。地学を学ぶことで地球の性質を深く追求でき、天災に備える知識や天災の起こる原理を科学的に理解してもらいたいと思っています。

2　学習の到達目標

・地球の大きさ、形、内部構造、抗生物質を理解できる。
・火山の活動と地震が発生する仕組みを理解できる。
・宇宙の構造から太陽系の組成、太陽の構造、組成、誕生について理解できる。
・上記の目標を達成するために探究活動を行い、学習内容を深めるとともに、科学的に探究する能力を高める。

3　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:思考・判断・表現	c: 観察･実験の技能	d:知識・理解
観点の趣旨	日常生活や社会との関連を図りながら自然現象に関心を持ち、意欲的に探究し、科学的な見方や考え方を身に付けている。	中学校理科との関連を考慮し、地学の基礎的な概念を形成し、自然現象に対して地学的に考察していく方法を身につけている。	ﾌﾟﾚｰﾄの色の塗りわけや、実際に天体を描き、ｸﾞﾗﾌを作成するなど、地学における基本的な考察の方法通して、自然の事物・現象を科学的に探究する技能を身に付けている。	宇宙の誕生と地球の形成について観察、実験を通して宇宙と惑星としての地球の特徴を理解している。
評価方法	学習状況の観察 授業ﾌﾟﾘﾝﾄやﾜｰｸｼｰﾄの記述 探究活動の記録、発表	学習状況の観察 授業ﾌﾟﾘﾝﾄやﾜｰｸｼｰﾄの記述 探究活動の記録、発表 定期考査の結果	学習状況の観察 授業ﾌﾟﾘﾝﾄやﾜｰｸｼｰﾄの記述 観察・実験の記録 定期考査の結果	学習状況の観察 授業ﾌﾟﾘﾝﾄやﾜｰｸｼｰﾄの記述 観察･実験の記録 定期考査の結果

上記の観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
一学期	地球の姿	地球の形と大きさ	○	○	○		a: 我々の住む地球の構造がどのようになっているのか興味を持ち、探求できる。 b:地球の大きさをどのように測るのか、なぜ地球が丸いのかを考察できる。 c:地球の大きさの計算方法を理解できる。ﾌﾟﾚｰﾄを種類に分けて色を塗ることでﾌﾟﾚｰﾄの運動を理解する。 d:地球の内部構造、構成物質について基本的な知識を身につけている。	学習状況の観察 授業ﾌﾟﾘﾝﾄやﾜｰｸｼｰﾄの記述 探究活動の記録、発表 定期考査の結果
		地球の内部構造		○		○		
		地球の構成物質				○		
		プレートの運動	○		○			
二学期	火山活動と地震	火山の分布	○		○	○	a:地震が発生する仕組みに興味を持ち、ﾌﾟﾚｰﾄの動きがどうなっているのかを探求できる。 b:火山の分布や地震が発生する地域の法則性を見つけ考察できる。 c:地震の動きを地震波の式を用いて定量的に理解する。 d:火山の分布や地震が発生する仕組みを理解する。	学習状況の観察 授業ﾌﾟﾘﾝﾄやﾜｰｸｼｰﾄの記述 探究活動の記録、発表 定期考査の結果
		火山の地形	○	○				
		地震が発生する仕組み	○	○		○		
		地震の動き			○			

		地震の発生する地域		○	○			
三学期	太陽	太陽の構造	○			○	a:太陽や惑星に興味を持ち、星の内部構造や特徴を探求できる。 b:地球型惑星と木製型惑星の違いや法則性を見つけ考察できる。 c:太陽系をそれぞれの惑星の大きさを比較しながらノートに描き、形や自転の軸、色を確認する。 d:太陽が燃えている仕組みを理解する。太陽系の構造を理解する。	学習状況の観察 授業ﾌﾟﾘﾝﾄやﾜｰｸｼｰﾄの記述 探究活動の記録、発表 定期考査の結果
		太陽の組成	○		○			
		太陽の誕生と将来		○				
	太陽系の中の地球	太陽系の構造				○		学習状況の観察 授業ﾌﾟﾘﾝﾄやﾜｰｸｼｰﾄの記述 探究活動の記録、発表 定期考査の結果
		地球型惑星		○	○			
		木製型惑星		○	○			

※　表中の観点について　a:関心・意欲・態度　　b:思考・判断・表現
　　c:観察・実験の技能　　d:知識・理解

※　年間指導計画（例）作成上の留意点

・原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。